

グリーン復興プロジェクトに係る取組(案)の概要

自然公園の再編成(三陸復興国立公園の創設)

概要

東北地方太平洋沿岸の自然公園のうち、陸中海岸国立公園など傑出した自然風景を中核として、三陸復興国立公園として再編成

【期待される効果】

観光地としてのまとまりの創出による連携の強化・魅力向上、地域活性化の基盤の創出、自然環境の保全

- ◆ 景観や利用状況等の調査を行い、国立公園としての資質を備えた複数の自然公園を一つの国立公園として再編成する(当面は、青森県蕪島～宮城県牡鹿半島及びその周辺の編入を目標とする)
- ◆ 国立公園に編入する区域及び保護・管理のための地域区分は、当面、既存の自然公園と同じとすることを基本とするが、将来的には、土地利用の変化や自然環境の状況に応じて見直す



← 鵜の巣断崖

【予算】 23年度3次補正: 15,000千円 (国立公園指定のための景観等調査費)

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
<ul style="list-style-type: none"> ・考え方のとりまとめ ・景観、利用状況等調査 ・関係機関、地方公共団体等との協議(H24年度以降も継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園計画書の作成 ・中央環境審議会への再編成案の諮問(第1回目) ・三陸復興国立公園の指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園区域、公園計画等の見直し

里山・里海フィールドミュージアムと施設整備

概要

陸中海岸国立公園と新たに編入する国立公園の区域において、被災した利用施設の再整備を行うとともに、新たな利用拠点、自然の脅威を学ぶ場の整備(ジオパークとも連携)と、多様な主体が参加する森づくりを進める

里山・里海、集落地を含め、面的にフィールドミュージアムと位置づけ、国立公園内での核となる施設整備と、エコツーリズム支援、環境教育等の様々な取組と調和させ、地域を活性化

【期待される効果】観光地としての魅力向上、利用の促進

◆ 陸中海岸国立公園における施設整備

【予算】 23年度3次補正:550百万円 24年度当初:1,000百万円

◆ 新たに国立公園に編入する区域における施設整備

【予算】 25年度以降:未定

◆ エコツーリズム支援、環境教育等(参照)



↑ビクターセンター

←展望所

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
・陸中海岸国立公園の施設整備	→	
	・新たな編入区域での施設整備(国立公園再編成後)	→

地域の宝を活かした自然を深く楽しむ旅(復興エコツーリズム)

概要

地域の自然環境、地域の暮らしを活用したエコツアーのモニターツアーの実施、プログラム作成、ガイド育成、情報発信等の支援をモデル事業として行い、将来的に地域自立型でツアーを実施するための体制を構築(農林水産業、ジオツアー、被災地のガイドツアーとも連携)。エコツーリズム・エコツアーの拠点施設の整備

【期待される効果】

新しい利用形態の構築、利用の促進、利用者と地域の人のふれあいによる交流の促進、地域の宝の再認識による地域への愛着・誇りの醸成、農林水産業の活性化に貢献

◆ モニターツアー開催、プログラム作成、ガイド育成、情報発信等の支援

【予算】 23年度3次補正:10,000千円(エコツーリズム推進のための基礎調査)
24年度当初:20,000千円(予定)

◆ 地域コーディネーター活用事業(地域協議会への専門家の派遣)

【予算】 24年度当初:72,000千円(全国対象予算、1/2補助)

◆ エコツーリズム・エコツアー拠点施設の整備(施設整備の再掲)

田野畑村提供



スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
・地域資源や観光基盤の調査 ・支援候補地の選定	・エコツーリズム支援・コーディネーター派遣 ・拠点施設の整備	→
		→
		・地域自立型のツアー実施に移行

南北につなぎ交流を深める道(東北海岸トレイル)

概要

青森県蕪島と福島県松川浦との間に、地域の自然や暮らし、震災の痕跡、利用者と地域の人々など、様々なものを「結ぶ道」を設定し、標識、トイレ、案内所等の利用施設を整備。集落地を通るルートの設定の際は、災害時の避難路としても活用可能に

【期待される効果】

新しい利用形態の構築、利用の促進、利用者と地域の人のふれあいによる交流の促進

- ◆ 地域の資源調査、東北海岸トレイルの設定方針等の検討・策定
- ◆ 路線の設定(実施可能な地域から着手)、管理体制の検討
- ◆ 利用促進のための普及啓発(モニターツアー、ウォーキングイベントの実施、HPでの広報)
- 【予算】** 23年度3次補正:12,000千円 24年度当初:30,000千円(予定)
- ◆ 標識、トイレ、案内所等の関連施設の整備(施設整備の再掲)



↑東北自然歩道

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
・地域の資源調査、設定方針等の検討、策定	・路線設定、普及啓発 ・管理体制の検討 ・施設整備	

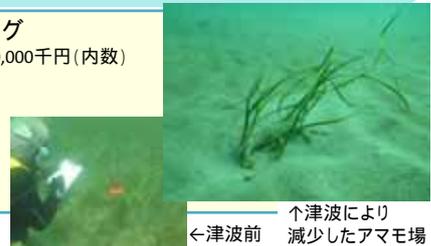
森・里・川・海をつなぐの再生

概要

地域の復興の意向も踏まえ、調査・モニタリングの結果生物多様性保全上重要な生態系に再生できる見込みがある場所については、干潟等への自然再生を実施。津波により減少した藻場については、地域の意向も踏まえ、必要に応じて自然再生を実施。里山の適切な保全・管理への支援

【期待される効果】地域のくらしの基盤となる自然環境の保全・再生、森・里・川・海をつなぐの強化、再生地のエコツアー等での活用などによる利用の促進

- ◆ 自然再生の候補地における調査・モニタリング
- 【予算】** 23年度3次補正:40,000千円 24年度当初:100,000千円(内数)
- ◆ 自然再生手法・体制の検討
- 【予算】** 24年度当初:34,000千円(予定)
- ◆ 里山の適切な保全・管理への支援
- 【予算】** 25年度以降:未定



↑津波により減少したアマモ場
←津波前

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
・調査・モニタリング	・自然再生手法・体制の検討 ・里山保全の支援	・必要に応じて自然再生の実施

持続可能な社会を担う人づくり(ESD)の推進

概要

自然環境の成り立ち、森・里・川・海のつながり、地域の暮らし、自然の脅威と防災などをテーマに、持続可能な社会を担う人づくり(ESD)に取り組む。国立公園のビジターセンター、フィールドミュージアム、東北海岸トレイルなどをESDの活動で活用する。

【期待される効果】

自然の恵みと脅威を後世に語り継ぐ、自然と共生する地域づくりの担い手の育成

- ◆ これまでのESDの取組状況、今後のESD推進のあり方の検討
- ◆ 震災経験を踏まえた環境教育のための素材集の作成
【予算】 23年度3次補正:8,000千円
- ◆ 今後の防災に活かすべき被災者の体験を通じた知恵・知見の収集
- ◆ 被災地域でのESDの実施(環境カウンセラーを活用した学校現場における環境教育等の推進、森・里・川・海のつながりやそれらを地域の宝として再発見し保全していくこと等をテーマとしたワークショップやシンポジウムの開催など)
【予算】 24年度当初:67,997千円(内数)

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み状況把握、あり方の検討 ・環境教育素材集の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・知見等の収集 ・被災地域におけるESDの実施 	

地震・津波による自然環境への影響の把握(自然環境モニタリング)

概要

生物多様性保全上重要な地域における、自然環境への影響の調査、変化し続ける自然環境のモニタリングの実施。津波石などの痕跡の調査、関係者との連携による調査・モニタリング情報の集約体制の構築、アーカイブとしての情報の整理・公開、総合的な地震・津波による自然環境への影響の評価

【期待される効果】

地震・津波の影響の記録、影響の評価、施設整備・エコツーリズム・自然再生・環境教育等の他のプロジェクトでの活用

- ◆ 緊急的な自然環境への影響把握調査、関係者の調査状況の把握、データベース・連携体制構築
- ◆ 自然環境調査(植生図・藻場分布図の作成、モニタリング)
【予算】 23年度3次補正:10,000千円 H24年度当初:100,000千円



唐桑半島の津波石→

スケジュール

H23年度	H24～25年度	中長期(H26年度～)
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急調査、関係者の調査状況の把握 ・データベース・連携体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境への影響評価